

Kawakita Rehabilitation Hospital GUIDE

社会医療法人 河北医療財団
河北リハビリテーション病院

〒166-0013
東京都杉並区堀ノ内 1-9-27
TEL：03-5307-5151
FAX：03-5307-5153



- 開設日… 2001年2月
- 許可病床数… 療養病床 135床
- 標榜科目… リハビリテーション科、内科、精神科
- 施設認定… 協力型臨床研修病院、日本医療機能評価機構認定、病院機能評価(高度・専門機能)リハビリテーション(回復期)
- 学会施設認定… 日本リハビリテーション医学会研修施設

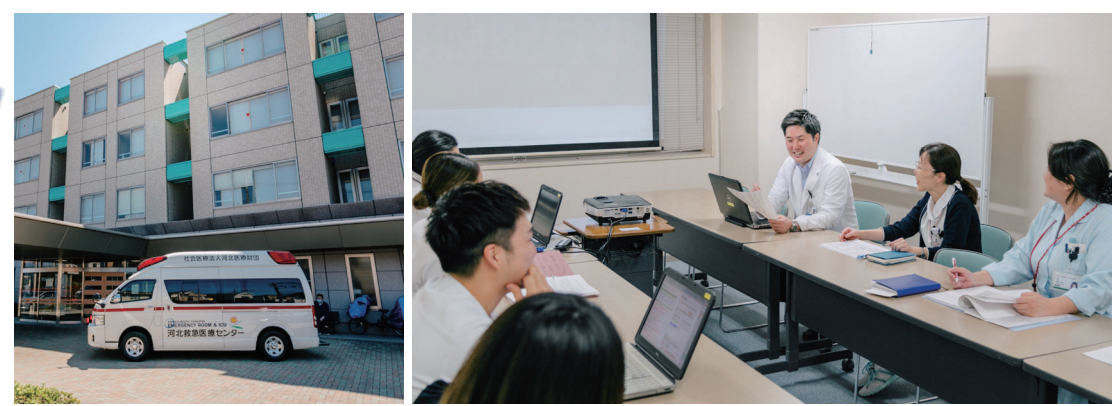


Kawakita Health Support Network suginami-area

- 河北総合病院
- 河北総合病院分院
- 河北サテライト クリニック
- 河北健診クリニック
- 河北透析クリニック
- 介護老人保健施設 シーダ・ウォーク
- 河北ファミリークリニック南阿佐谷
- 河北訪問看護・リハビリステーション阿佐谷
- 河北居宅介護支援事業所南阿佐谷
- 杉並区委託事業 地域包括支援センター
ケア24阿佐谷・ケア24松ノ木



河北リハビリテーション病院の理念
人間の原点を再考し復権をめざす

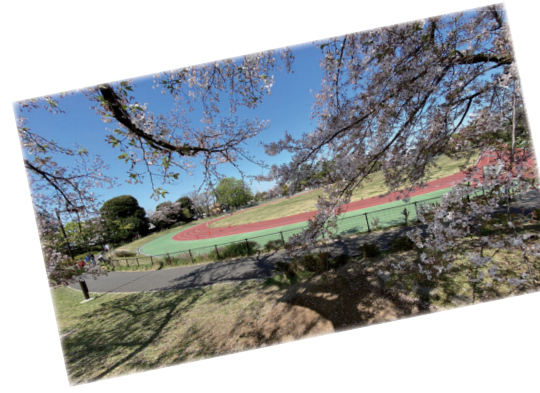


自分らしく暮らせる毎日のために
私たちは全力でサポートします

河北リハビリテーション病院は河北医療財団のリハビリテーション医療の拠点として2001年に開設しました。以来、当院は近隣地域からのリハビリテーション医療に対するニーズに応じています。当院は専門的なりハビリテーション医療と心のこもった良質なケアを通じてそれぞれの患者さんご家族を支援します。一日も早く安心、安全に住み慣れた地域で、その人らしい生活を安心して再開できるよう職員一丸となって最善のリハビリテーション医療を実践しています。



河北リハビリテーション病院
院長 宮村 紘平



また、ご自宅の情報を事前に把握し退院後の生活環境に合わせたリハビリテーション治療を実践しています。そして、リハビリ以外の余暇時間にも力を入れていきます。自主トレーニング指導を始め、社会交流の場としてのレクリエーション、体操、病棟での家事動作など、患者さんの個性や家庭背景に合わせたプログラムを工夫しています。時には患者さん自らが講師となり余暇活動を盛り上げていただくこともあります。入院中の集団生活を通じて退院後の社会参加、通所サービスの利用などにスムーズにつながるためにも重要な機会となっています。当院では、独自に退院後家庭訪問を実施しており、入院中にご提案した内容の確認や退院後の不安などをうかがい更なる支援の質向上に努めています。

当院では患者さんに、生活の再開や社会への参加のために多職種の医療専門職のチームを作り、患者さんに応じたリハビリテーション治療を選択します。私たちの支援は患者さんの自宅での生活再開に留まらず、退院後の生活の安定や、疾病予防・健康増進、就労再開などの社会参加に関する支援など多岐に渡ります。このため、当院では退院後の「新しい生活」を見据えながら、入院生活が「生活の場」であるべきと考えています。機能訓練室における個別のリハビリテーション治療はもちろんのこと、病棟、病院内、病院の周辺も含めてリハビリテーション治療の場として活用しています。近隣の善福寺川公園内の遊歩道や大宮八幡神社、方南

自分らしく暮らせる毎日のために
私たちは全力でサポートします



作業療法士 (OT)



理学療法士 (PT)



言語聴覚士 (ST)



私たちは、リハビリテーションで機能回復を図るのはもちろん、患者さんやご家族の様々な不安を取り除き、住み慣れた街、家、その人らしい生活を再び築いていくことをめざしています。

起床から就寝時までの間、食事や着替え、歯磨きや排泄など日常的な動作、趣味などの余暇活動や人との交流も含めた生活そのものをリハビリテーションととらえています。医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー等をはじめとした様々な専門職がチームを組み、それぞれの専門知識を持ち寄って患者さんやご家族を支援します。オーダーメイドのリハビリテーションを

提供できるよう、河北リハビリテーション病院内だけでなく、関連施設の河北総合病院、河北家庭医療学センター、シーダ・ウォーク（介護老人保健施設）での研修制度を設け、視野の広い療法士として、患者さんお一人おひとりの社会復帰を支援しています。

退院後はリハビリテーションが終了してしまうのではなく、趣味活動なども含め、生活することがリハビリテーションとなります。入院中から個々の特性に応じた自主トレーニングの提案、介護をするご家族への介助方法の指導をおこないます。また、必要な方へは実際の生活動作に合った環境づくりや日常動作の練習・アドバイスなどをおこなう訪問リハビリサービスを実施するなど、患者さんが退院後も充実した生活が送れるよう支援しています。



Team approach

専門職がチームを組んで
皆さんの悩みに応えます

理学療法士 (PT)



歩く、立つ、起きる、座るといった基本的な運動能力を高めるための訓練や指導を実施しています。また、装具の検討や調整などをおこない、患者さんの状況に合わせた車椅子や補装具などの選択から、それらを使っての効率的な移動の仕方などをアドバイスしています。

作業療法士 (OT)



食べる・トイレに行く・着替えるなど日常生活に必要な動作の練習をおこないます。また、調理や買い物などの家事練習、高次脳機能障害に対しての練習、仕事復帰のための評価や練習をおこなうなど、「その人らしい」生活の獲得に向け、方法を一緒に考え、習得を支援します。

言語聴覚士 (ST)



失語症や構音障害などことばの障害に対し、コミュニケーション能力を高める訓練を行ないます。また、高次脳機能障害や摂食嚥下障害の訓練もおこないます。患者さんだけでなく、ご家族に対する支援もおこなっています。

医療ソーシャルワーカー



疾病、障害などによって引きおこされた社会生活上の課題や、心の悩みに対する相談にのり、ご本人やご家族ができるだけ自身の力で課題に対処し、解決できるように援助をしています。制度活用や在宅生活再開における工夫、施設利用、社会復帰など、退院後の生活について共に考えていきます。

医師



患者さんの診断、治療ゴールの見直し、障害の受容を助ける情報提供、理学・作業・言語聴覚療法の処方、装具の処方、在宅への調整、内科的管理などを中心に病院と自宅での生活をつなぐ橋渡しをおこないます。

看護師



患者さんにとって一番身近な存在として、リハビリテーションが円滑におこなわれるよう身体状況の観察や精神的支援をおこないます。また、リハビリで獲得した「できる活動」を病棟で実際に「している活動」へと活用できるように、日常生活を支援しています。

看護補助者



看護師と共に、身近な存在として、療養生活の支援はもちろん、日常生活の動作が身に着けられるよう支援します。また、介護が必要なご家族に具体的な介護方法を指導しています。

薬剤師



薬は同じでも疾患や症状、年齢、体格、腎臓や肝臓の機能によって服用量が変わります。飲み合わせを確認し、患者さんにあった剤形や服用方法を考えて調剤をしています。病棟では薬に関する不安や疑問、正しい使用方法や服薬の意義をお伝えし、薬物療法支援に努めています。

管理栄養士



リハビリテーションの効果を高めるために食事は大切です。食形態や提供内容を個別に調整し、美味しく召し上がっていただけるように患者さんの栄養状態を観察し、提案・サポートをおこないます。また、退院後の食事の作り方や気を付ける点など、食事・栄養面の指導もしています。

診療放射線技師
エックス線を利用した画像診断検査を担当しています。限られた時間の中で撮影するだけでなく、患者さんの状態を的確に把握し、きめ細かな疼痛対策や適切な声掛けを積極的におこなうことで、検査や被ばくに対しての不安軽減に努めます。

臨床検査技師
患者さんの血液、尿等を分析する検体検査と、心電図検査をおこなっています。これらの検査を迅速・正確におこない、医師にデータを提供し診療の支援をおこないます。また、感染情報、栄養情報を他のスタッフと共有することで、患者さんが安心安全な入院生活を送れるよう努めています。

Flow for a day

快適な空間で 毎日のリハビリテーションをお手伝い

看護師は、患者さんが入院生活を快適に過ごせるように、診療の補助、療養上のサポート、精神的なサポートもおこなっています。患者さんの一日は、お一人おひとりの状態に合わせたプログラムが個別に用意されています。日常生活が自立できること、退院後の生活を見据えた上で、機能回復だけでなく、個々の意欲が引き出せるような支援もおこなっています。

また、24時間リハビリテーションという概念を持ち、リハビリスタッフが不在である夜間帯なども患者さんの自立へ向けたサポートをおこなうことが重要な役割と考え取り組んでいます。患者さんと

例：1日のスケジュール

- 6:00～ 起床
- 7:00～ 着替えなどの身支度
- 8:00～ 朝食
- 9:00～ リハビリテーション
入浴
- 11:30～ 休息・体操
- 12:30～ 昼食
- 13:30～ リハビリテーション
面談
- 17:00～ 休息・
レクリエーション
- 18:00～ 夕食
- 19:00～ 着替えなどの身支度
- 21:00～ 就寝

専門スタッフが在籍しています

◎ 看護師 ◎

特定行為研修 血糖コントロールと薬剤調整（河北医療財団認定）
認知症研修Ⅰ・Ⅱ修了（日本看護協会）
看護専門実践研修 感染管理（河北医療財団施設）
摂食嚥下障害看護認定看護師（日本看護協会）

◎ 看護補助者 ◎

介護福祉士 初任者研修修了者



多職種合同カンファレンス



看護師によるリハビリテーション
頑張ります！



スタッフを笑顔で
心がけています



スタッフと一緒に本を
閲覧したり、学びの時間も



患者さんへ病棟訓練の
説明をしています

Message

私たちは患者さんの
気持ちに寄り添いた
がら、期待に応えるこ
とを心がけています。

ご家族が退院後の生活に困らないよう看護師が病院と在宅や地域をつなぐ退院支援や退院調整をおこないます。

看護補助者は、入院中の患者さんの食事・入浴など、生活全般にわたり看護師と一緒に介護をおこなっています。

患者さんへの直接的な介護に関わることで、お一人おひとりのリハビリプログラムがスムーズにおこなわれるようにチームの一員として患者さんを支援しています。

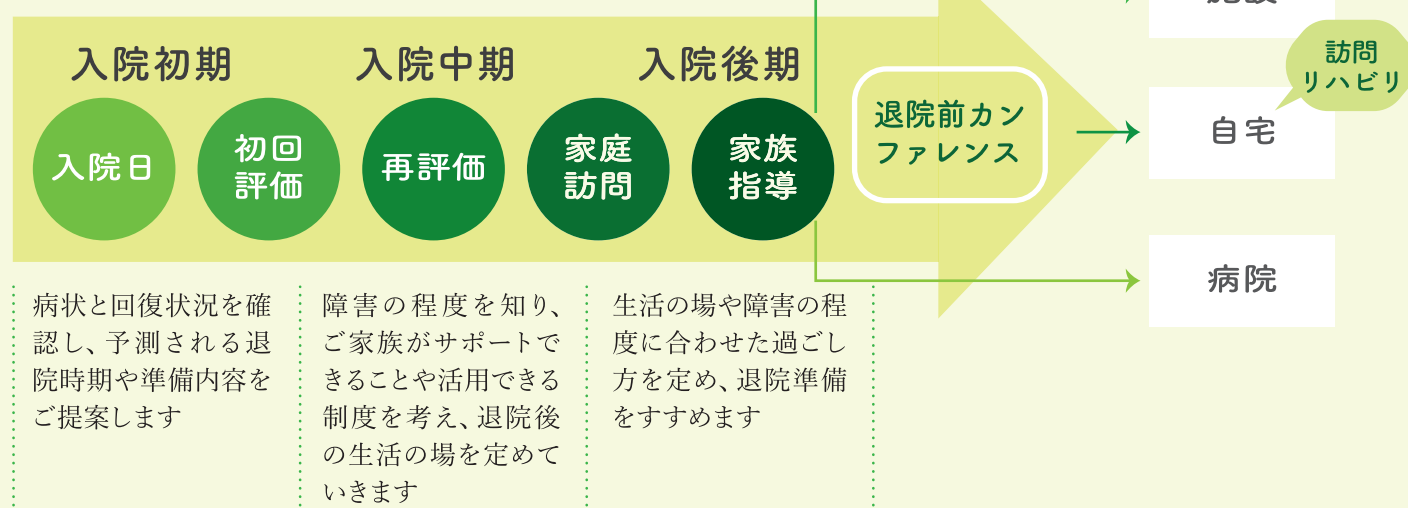
入院・外来について

【入院相談のながれ】

初めにお電話にてご相談を伺います。ご入院先の病院担当者よりお電話をいただき、必要書類を受け取ります。その後、書類をもとに入院判定会議をおこない、入院の受け入れ可否を判定いたします。入院受け入れ可能の場合は、ご来院またはお電話にて入院のご案内をいたします。入院日が決定次第ご連絡いたします。



【入院から退院までのながれ】



病状と回復状況を確認し、予測される退院時期や準備内容をご提案します

障害の程度を知り、ご家族がサポートできることや活用できる制度を考え、退院後の生活の場を定めていきます

生活の場や障害の程度に合わせた過ごし方を定め、退院準備をすすめます

《入院対象例》

脳血管疾患、運動器疾患、廃用症候群など ※詳細はお電話にてお問い合わせください

☐ ソーシャルワーク科 月 - 土曜日 9:00-17:00

TEL 03-5307-5157

FAX 03-5307-5160

【外来診療のご案内】

予約制のため、お電話にて承ります。※ 診療時間については、変動いたしますので必ずご確認ください。

リハビリテーション科 ボトックス外来 (ボツリヌス療法)

☐ 河北リハビリテーション病院 受付: 月 - 土曜日 9:00-17:00 TEL 03-5307-5151

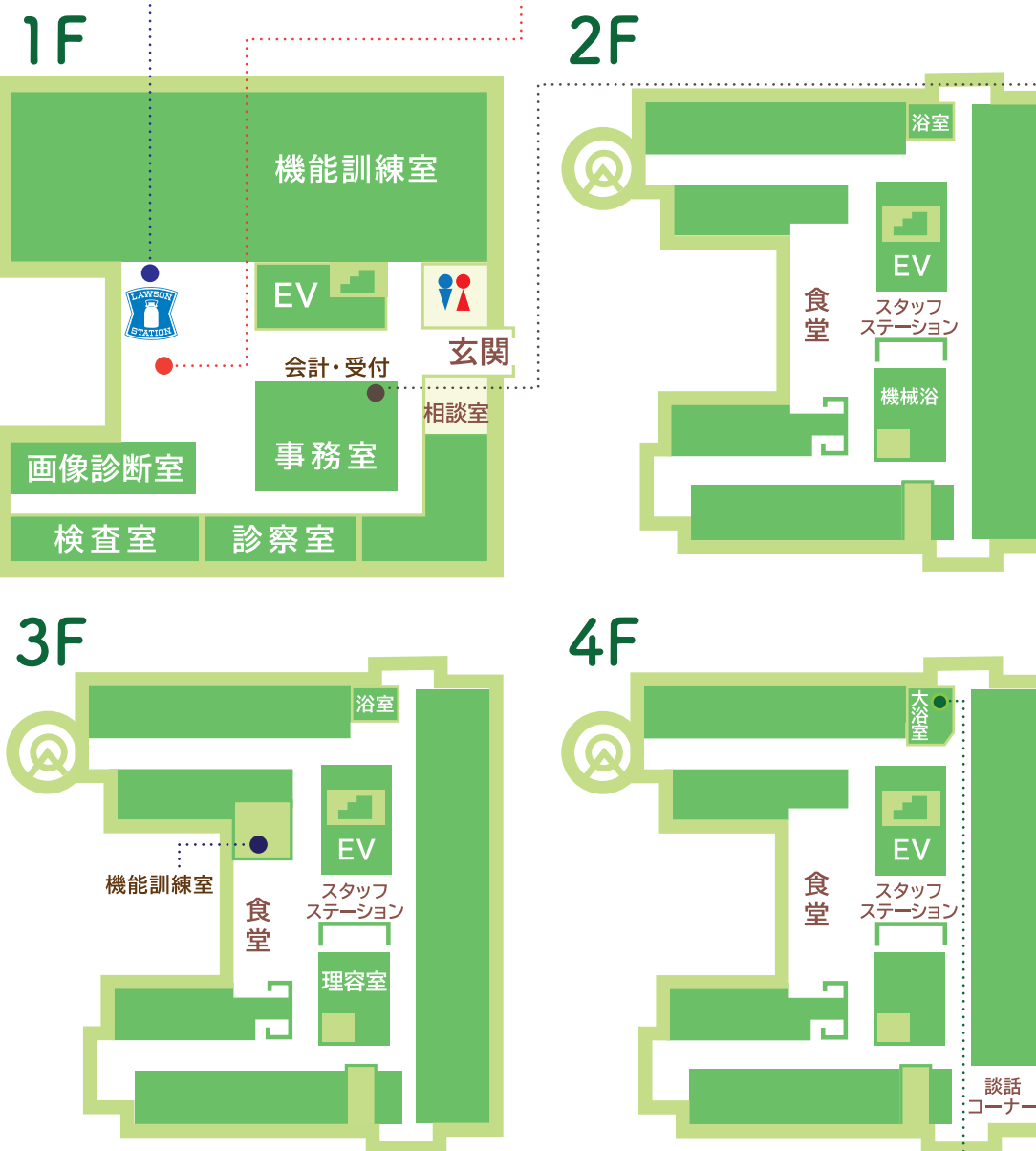
【安心と納得が創る信頼】

個人情報保護方針、患者さんの権利と責任・カルテ開示については、ホームページをご確認ください。

個人情報保護方針 https://kawakita.or.jp/kmf/content_effort/trust/

患者さんの権利と責任・カルテ開示 <https://kawakita.or.jp/suginami-area/kgf/outline/>

フロアマップ



病室(特室)



病室(個室B)



河北バス

